

## 巻頭エッセイ

### 未来へ！ 見えないものを見るために

和田 豊  
古野電気株式会社  
常務取締役



当社は、久しぶりに（すみません）企業ブランドサイトならびにムービーを全世界で一斉に公開しました。FURUNOグループのブランド価値向上を目指している中、そのアウトプットの一つになります。まずは、当社公式ウェブサイト<http://www.furuno.co.jp/>からご覧ください。綺麗で穏やかな海岸で海を見ている少女の後ろ姿が現れ、そこからムービーが始まります。最初のスクリーンには英語でCHALLENGE the INVISIBLEと書かれていますのでご注目ください。これは、“お客様に寄り添って、当社の事業テーマである「見えないものを見る」ことに挑戦する社員のイメージ”を重ね合わせています。英語のチャレンジには、生半可な頑張りではなく大変重い決断をもって挑むという意味があると説明されています。これからの私たちがそのような挑戦ができれば最高の幸せではなかろうかと期待を膨らませています。その挑戦するターゲットは何か？ムービーでは、それらを大きく次の四つに絞っています。

「海洋資源の未来を、見る」

「航海の未来を、見る」

「マリライフの未来を、見る」

「暮らしの未来を、見る」

すべて、当社の得意な技術を革新的に進化させ、未来へ繋げたいとの思いの結集です。とは申せ、今（このエッセイを書いている時）最中では、海洋、船用の市場環境はまだまだ厳しいものがあり、それを“パーフェクトストーム”、複数の要因が破滅的な事態を起こしかねない究極の嵐（2000年製作の米国映画は、“The Perfect Storm”）と表現される海運会社経営トップもいらっやいます。そのような時にこそ、しっかりと足元を固めて生き残るための力量をアップ

していかねばなりませんね。基本に戻ろうということでしょうか？当社創業者が云うところの「原点回帰」を試みて、改めて未来を考える良いタイミングではないかとも考えています。つまり、今だからこそ見えないものをしっかり探索し、あれもこれもと欲張らず、見たいものは何かを明確にし、お客様目線で重要度、緊急度を理解しながら、アレかコレかで可視化を推進したいと考えています。

さて、これはもう既報になっているかと思いますが、我が国政府は、この初春より空間情報活用への推進を本格的に始動されていると伺っています。これは海洋国家である日本が、国全体を俯瞰して情報を徹底的に吸い上げて多方面の施策へと展開されると理解しています。このように大きなプロジェクトから地理空間情報の整備、提供が促進され、皆さんの活躍の場面へと展開されてくると期待しています。作業船と言ってもその種類は多く、その作業目的もいろいろありましよう。我が国でも6,000隻もの作業船が日々、活躍されていると伺っています。そこでは陸上と同じく、IoT、ビッグデータ集積とその解析、その通信を効率よく実現する情報通信技術、船内船外通信インフラ改革などが求められてくると察します。当社と致しましても爾来標榜しているSPC+I（Sensing, Processing, Communication + Integration）とする技術分野を中心に着実な貢献をぜひ実現して参りたいと考えています。

当社は、2018年12月には創立70周年を迎えます。皆さまもこれまでいろいろ多難な時代を乗り越えて今日までこられたことでしょう。皆さまからの多くのご教示を頂きながら少しでも作業の安全強化、効率化、環境配慮への取組等に貢献したいものです。